

ミネフジツボ養殖普及へ



ミネフジツボの養殖技術開発について説明する
鶴見浩一郎特任教授（27日、八戸市庁）

ミネフジツボは国内最 びやかかに似た食味が特
大のフジツボ。甲殻類でエ 長とされる。高価格で取引

所得向上や経済効果に期待

青森県栽培漁業振興協会（階上町）が研究
を進めてきた高級珍味「ミネフジツボ」の種
苗生産について、全国で初めて実用レベルで
の技術開発に成功したことを養殖関係者が27
日、八戸市庁で熊谷雄一市長に報告した。事

業化が進めば、漁業者の所得向上につながる
ほか、流通量の増大によって飲食、観光方面
での経済効果も期待できる。関係者は「実績
を積み上げて産業レベルの展開を目指す」と
意気込みを示した。
（金濱千優希）

県栽培漁業振興協会（階上） 八戸市長に報告



全国で初めて種苗生産技術の開発に成功し、
事業化への期待が高まるミネフジツボ

されるが、県内で区画漁業
権を持つのは川内町漁協
（むつ市）のみ。天然物を
含めても供給量は多くはな
い。
同協会の二木幸彦業務執
行理事と松橋聡専門員、技
術を開発した八戸学院大の

鶴見浩一郎特任教授、養殖
試験に協力する八戸鮫浦漁
協や東北総合研究社の担当
者らが八戸市庁を訪ね、熊
谷市長に開発成功の経緯な
どを説明。餌として有効な
植物プランクトンの特定
が、種苗の安定生産につな
がったことなどを伝えた。
陸奥湾産ミネフジツボの試
食も行った。
鶴見特任教授は取材に
「水産物として流通させる
には、さらに研究や努力が
必要。フジツボがもっと当
たり前に食べられるよう、
広く研究が進んでほしい」と
期待を込めた。